

Emergency Watch



神戸こども初期急病センター



2012年12月受診者数：2880人

訴え

- 1. 発熱 : 1535人 (1152人)
- 2. 咳 : 1266人 (362人)
- 3. 鼻汁 : 1052人 (27人)
- 4. 嘔吐 : 784人 (472人)
- 5. 下痢 : 376人 (66人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 972人
- 2. 感染性胃腸炎 : 750人
- 3. 気管支炎・肺炎 : 197人
- 4. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 187人
- 5. グループ : 121人

今月のワンポイント！

神戸こども初期急病センターは、平成24年12月より開設3年目に入りました。この12月、神戸はとても寒い日が多かったです。この1か月間の受診者数は2880人で11月よりも約500人増えました。しかし、平成23年12月の受診者数が3169人でしたので、これと比較すると300名ほど減ったこととなります。これはインフルエンザの流行が少し遅かったことが関係していると思われます。

さて今月のワンポイントですが、インフルエンザが疑われる際の良い対処法をご説明いたします。インフルエンザが流行する時期になりますと、特別な慢性疾患のない小学生以上の年齢の子ども達が、始まったばかりの発熱を訴えて夜間に当センターを受診されることが多くなります。こういう場合、翌朝にお近くの小児科を受診されることをお勧めいたします。その理由を2つ挙げます。1)発熱が始まってから12時間以上経過しなければインフルエンザ検査をしても、インフルエンザでないことを証明できません。つまり早くにこの検査をしてしまうと、不快を伴うこの検査を結局何回もすることになってしまいます。2)当センターは、緊急度が高い患者さんから順に診察を受けられるようにするトリアージシステムを用いています。全体的に見れば良いシステムですが、一斉に患者さんが受診された場合、あとから来られた緊急度の低い患者さんは長時間待たなくてはいけません。始まったばかりの発熱や倦怠感の他にあまり症状がない小学生以上の子ども達は、緊急度が低い場合が多いです。夜、寒くて、眠くて、しんどい状態で長時間診察を待つよりは、自宅で暖かくして安静にし、翌朝近くの小児科を受診するほうが体の負担が少ないからです。

逆に、小さな子どもさんの場合や、呼吸が苦しそうであったり、けいれんが止まらなかったり、妙にぐったりしている場合などはすぐに受診してください。

インフルエンザは、怖い病気であるのは確かですが、ほとんどの子どもさんは、1週間前後で元気になります。あわてずに、でも危険な兆候を見逃さないように、こども達を見守っていきましょう。

